

った。

4. 2958 について□のなかに あてはまる
 かずを かきいれましょ。う。
 (1) 2958 は 100 のあつまりが □
 と 58 をあわせたものです。

誤答分析の結果、誤答のおもなものはつぎ
 のとおりである。比較的応率の高いものを
 あげてみる。

正答 29 (37 %) 9 (21 %)
 19 (8 %) 20 (8 %)

これは、2900 と 58 とから構成されること、
 100 が 29 あつまって 2900 になることなど、
 100 が 10 こで 1000、100 が 20 こで 2000、
 そして 100 が 29 こで 2900 である数の相対的
 な大きさの理解がじゆうぶんでないためのあ
 やまりと考えられる。100 が 20 こで 2000、
 100 が 9 こで 900、したがって 2900 は 100
 が 29 こあつまった数であると推測できるよ
 うにしたい。

③ 分数の理解

$\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ の意味の理解について、 $\frac{1}{2}$ の意味理
 解をみる問題の正答率は 57.3 % と低かった。

えんぴつで したの テープを $\frac{1}{2}$ だけ
 ぬりましょ。う。

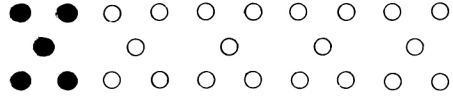
--	--	--	--

おもな誤答は、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{3}{4}$ ぬっているもの、
 それから $\frac{1}{2}$ よりやや長くぬっているあやまり
 であった。

「ぜんたいの $\frac{1}{3}$ だけぬってあるもの」をみ
 つける問題の正答率は 88.7 % と高いが、 $\frac{1}{2}$
 をつくらせる問題の正答率は低い。理解の不
 確実さによるためである。 $\frac{1}{4}$ だけぬっている
 誤答が約 20 % あったことなどから、ただ 2
 つに分けた 1 つぶんと考えているのではない
 だろうか。全体を 1 つのまとまりとみて、こ
 れを 2 等分し、その 1 つ分が全体の $\frac{1}{2}$ である
 という理解が必要であろう。具体的ないろ
 ろのものについて、このことを理解させるよ
 うにすることがたいせつである。

④ 乗法の用いられる場合の理解

12. 白いまるのかずは、くろいまるのかずの
 なんばいでしょ。う。



この問題の正答率は 45.2 % で 他の問題に
 比して低い正答率であった。昭和 41 年度に
 これと類似の問題 (答が 3 ばいとなる) につ
 いてテストしたときは 50.3 % の正答率であ
 った。

誤答としてみられるのは、基準との差をも
 って答としたあやまりなどで、基準との比較
 で倍による比較の意味がじゆうぶん理解され
 ていない。まず、基準をはっきり意識し、そ
 れが、いくつぶんあるかを見とおせるように、
 具体的操作をおし、理解させるようにする。
 特に、5 つずつを 1 つのまとまりとしていく
 つぶんと考えられるようにする。

⑤ 乗法九九の構成

乗法九九の構成理解について、累加の考え、
 九九を一つの系列とみたときの法則性の理解
 についての問題から乗法九九の意味の理解を
 とらえようとした。法則性の理解について正
 答率は 40.1 % で低かった。

□ に あてはまるかずを かきいれま
 しょ。う。

(2) 8×5 は $8 \times 4 +$ □ です。

誤答分析の結果はつぎのとおりである。

正答 8 (45 %) 1 (17 %)
 5 (10 %) 32 (4 %)

累加の関係の簡潔な表現としての九九の意
 味はやや理解されているが、九九の法則性に
 ついての理解はあまりよくなかった。あるい
 は式表現による抵抗もあったと思われるが、
 低い正答率である。

誤答の「1」は $8 \times 5 = 8 \times (4 + 1)$
 と考えたのであろう。式表現および法則性の
 理解が確実でないためのあやまりである。誤
 答の 5 は、 8×5 の 8 の意味、5 の意味が確
 実に理解されず、形式的な暗記による九九学